

にしじま通信



編集者 西島 由紀恵

こんにちは！今年初めての「にしじま通信」です。

本年もよろしくお願いします。(ぺこり)

この冬は本当に雪が少ないですね。というより雪がない！楽だなあと思う反面、農作物や植物に悪影響なんじゃないかと気になります。

ところで、全国高校サッカー大会の決勝戦見ました？
決勝が北陸対決なんて、一昔前じゃ考えられなかったですよ。(福井が入ってないのが残念ですけど・・・^^;) 星陵高校が2対0でリードしてて、後半の42分から富山が追いつきました。そして延長戦の結果、富山が逆転優勝しました。



同点に追いついた富山第一

うちの息子たちもサッカーをやっているので、今まで百試合以上は観てきたけれど、後半42分で2-0だと、ほぼ負けだと思っちゃいますよ。たぶん誰もが星陵高校がこのまま逃げ切ると思ってたでしょうね。

あの試合を観て、「あきらめなければ、奇跡はおこるんだ」って改めて思いました。本当に感動をありがとうございますね！

〒919-0621 あわら市市姫 5-6-33

西島木材株式会社

リフォームハンズにしじま

西島和之一級建築士事務所

フリーダイヤル 0120-430-156

あわら市 リフォーム

検索

～社長の一言～

某工務店さんから『理念探究セミナーに参加してみないか？』と誘われました。時間の調整ができず、代わりに女房に行ってもらいました。丸1日かけて本質に迫っていくらしいのですが、会社の理念のはずが、なぜか辿りついたのは”夫婦の会話を深く真剣にする”だったらしいです。

(笑)



施工事例 (福井市Y邸)



おばあちゃんの部屋を増築しました。
天井は福井県産材の杉を使っており、屋根の野地板と合わせて「県産材助成金」を受けています。
床は、パインの無垢材を張りました。木の香りと調湿効果で快適に過ごせると思います。
もちろんバリアフリーになってます。

～事務所をプチ改装～

福井県産の杉板を壁全面に貼りました。こうして木に囲まれて仕事しているとパワーが出てくる気がします。明るくなったでしょ？！



1月最後の土・日、倉庫で「みそづくり教室」をしました。
“おみそ”って、結構簡単なんですよ。でも、一人ではなかなか作ろうとは思わないですよね。
そこで、「みんなでワイワイ楽しく作りましょ！」と始めたのが「みそづくり教室」なんです。
いろんな出会い、いろんな会話があって、私たちが楽しんでやっています。
興味のある方は来年参加してね・・・



1月25日、「木の住まい教室」第3回目を開催しました。
今回は、岐阜県からシロアリ業者の永峰さんに裏話（本当の話）をしていただきました。
特に「シロアリは害虫ではない。この地球上に必要なもの」という話には驚きでした。森や木の倒れた木や枯れた木を食べてくれるから。
自然界で木材中のセルロースを分解し、土に還元できるのはシロアリだけなんだそうです。
薬品のことについても、とても興味深い内容でしたので、ぜひ又こういう機会をつくりたいと思います。

深イ～話！

No.61

—宮崎中央新聞（香葉村真由美 「愛でしかかわらんとよ」より—

心を思うことの大切さを私はサッチちゃん（仮名）という子のおばあちゃんに教わりました。

サッチちゃんのご両親はおばあちゃんのところ、まだ小さなサッチちゃんを預けたままいなくなっていました。そのときからサッチちゃんは声を失いました。人前で一言も喋らなくなったのです。唯一喋ることができる相手はおばあちゃんでした。おばあちゃん以外の人には「うん」と頷くことと、「ううん」と首を振ること、それだけでコミュニケーションをとっていました。

6年生になった時、私はサッチちゃんの担任になりました。

彼女が6年間学校で一言も喋らずに卒業することが、私はどうしても嫌でした。それで、おばあちゃんのところに行って、サッチちゃんがどうして喋らなくなったのか、その理由をクラスの子どもたちに話していいか聞きました。

おばあちゃんは「ダメだ」と言いました。それは、サッチちゃんがずっといじめられていたからでした。

何も話をしないサッチちゃんは、「何を考えてるのかわからない」と周りの子たちから言われ、次第にいじめられるようになっていたのです。

サッチちゃんがいじめられると、その翌日には、必ずおばあちゃんは学校にやって来ました。小さい体でドタドタドタッとやって来て、教室の扉を開けると、「誰ね！うちのサチコをいじめたのは！」と言って、一生懸命サッチちゃんを守っていました。だから、おばあちゃんは、「サチコの両親のことをみんなに話したら、またいじめられてしまう」と言ったのです。

しかし、私は、「一言も話さないままサッチちゃんを卒業させることは私にはできません。お願いだから私を信じてください」と頭を下げました。何時間も話をして、「わかった。そこまで言うなら先生を信じる。その代わり絶対にサチコをいじめの子をつくらないで欲しい」と言われ、約束をしました。

次の日、クラスの子どもたちにサッチちゃんがなぜ声を出せないのか、理由を説明しました。子どもたちはその理由を初めて知って驚いていました。

「先生はサッチちゃんとお話がしたい。みんなもサッチちゃんと話をしてほしい。サッチちゃんに『声を出して』と言うんじゃなく、どうすればお話ができるか考えてほしい。それがクラスだから」と伝えました。

そこで子どもたちが考えたのはペンとメモ用紙でした。サッチちゃんがペンとメモ用紙を持ち歩き、言いたいことをメモして、相手に見せるのです。サッチちゃんに「それでいい？」と聞くと、サッチちゃんは笑顔で頷いてくれました。

翌日、サッチちゃんは「おはよう」とメモ用紙に書いて、それをある子の机に貼りました。すると、机に貼られた子はそのメモを見てサッチちゃんのところに行き、「サッチちゃん、おはよう！」と言いました。サッチちゃんは「すごい！」という顔をしました。

次の日は、「おはよう、宿題やってきた？」と書いたメモをサッチちゃんは机の上に貼りました。それを見た子が「サッチちゃん、おはよう！私、宿題やってきたよ」と答えました。

ある日、他のクラスの子からいじめられてサッチちゃんが泣いていると、「いじめたのは誰？何年何組か書いて」とクラスの子たちは聞きました。サッチちゃんが書いたメモを見てその教室に行き、「サッチちゃんをいじめたの誰？」と言って、サッチちゃんのおばあちゃんの代わりにクラスの子たちがやり始めたのです。

サッチちゃんのメモの言葉を通して、クラスの子どもたちの関係が深まっていくのが分かりました。